

Q1 印象に残っている言葉は？

A1

持って生まれたものを
深くさぐって
強く引き出す人

by 高村光太郎

出身高校の「目指す人間像」を表す言葉であり、高村光太郎の「少年に与ふ」という詩の一節です。自分の強みや得意なことは何か、意外と自分では気付けないこともあります。人生のさまざまな段階や置かれた立場によって変化するものもあると思います。これは、大学院時代の恩師にも言われ続けた、「自分(の特長)を知りなさい」という言葉に通じており、長年心にとどめて日々過ごしています。

Q2 今の仕事に就いたきっかけは？

A2 異分野融合のプロジェクトで
自分の適性を知ったこと

幼い頃から学研の「科学」を愛読し、小学校の授業で顕微鏡を使ったことがきっかけで夢になりました。大好きな気持ちは衰えることなく、大学院生の時に顕微鏡を用いた研究の第一人者である黒岩常祥先生に師事しました。

東京大学で研究所や大学が参画する異分野融合のプロジェクトに加わり、自分の強みである顕微鏡の知識を使って、さまざまな研究をサポートするようになりました。そこでは他の研究者にアドバイスをしたり、論文になるようなデータの支援を行ったりしました。そのうちに、いろいろな人とコミュニケーションを取りながら仕事を進めていくことが自分の新たな強みだと気



さきがける 科学人

vol.85

視野の広さを生かし 研究チームを支える

ERATO水島細胞内分解ダイナミクスプロジェクト
研究推進主任
東京大学 大学院医学系研究科 特任准教授

齊藤 知恵子

Chieko Saito

Profile

青森県出身。1999年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。理化学研究所専任研究員や東京大学大学院理学系研究科特任准教授、JST研究開発戦略センターフェローを経て、2018年より現職。

付きました。プロジェクトを通して、若手研究者の論文が通った時や就職が決まった時など、サポートのやりがいを感じました。研究の現場を離れた研究開発戦略センターでの3年間では研究者以外の方との出会いがあり、広く物事を俯瞰し、分析した結果を提言する、という貴重な経験ができました。

現在はERATO水島細胞内分解ダイナミクスプロジェクトの研究推進主任として働いています。プロジェクトの進捗や成果の把握、企画調整、メンバーの相談などさまざまなサポート業務を行っています。さらに、これまでの顕微鏡の知識を生かして研究にも一部携わっています。

Q3 休日の過ごし方は？

A3 家事をこなしつつ、
子供たちと趣味を楽しむ

平日になかなかできない家事をこなしたり、小学生の子供たちと趣味のカラオケを楽しんだりしています。カラオケは海外

の著名な科学雑誌の編集者とご一緒させていただいたという貴重な経験もあります。最近は娘と行くのが楽しみです。息子の野球チームの練習やプロ野球のゲームを見に行くこともあります。野球を見ると、スタープレイヤーだけでなく多様な人がいて、それぞれの役割を果たしているからこそチームが成立していることを実感します。研究室もいろいろな人が役割を担って研究室が成り立っています。自分をしっかりと見つめ、個性を生かして仕事に携わることが大切だと思います。



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

R70

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

JSTnews

May 2019

発行日/令和元年5月10日

編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ

電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432

E-mail/jstnews@jst.go.jp JSTnews/https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー